

看護職員パソコン活用状況調査報告

Nursing personnel personal computer practical use situation investigation report

看護システム委員会：柳沢 美保・甲斐沢政美・太田 君枝

〈要旨〉

看護システム委員会では、看護職員の情報活用能力の向上を目指し、平成11年度・平成12年度に当院看護職員のパソコン活用状況調査を行った。パソコン所有の有無、利用方法、パソコン講習の受講希望内容、医療情報システムの周知度などをアンケート調査した。結果、パソコンの個人所有者数は増加し、ワープロ・インターネット・メールなどに活用されていた。講習の希望内容は、Excel, Word, パソコンの基本操作などであり、医療情報システムの連携についての周知度は2割で、個人の学習希望と業務に使っていくことを合せた、情報教育が必要であることが明らかになった。

〈キーワード〉

パーソナルコンピューター、情報教育、医療情報システム

1. はじめに

近年、情報化の進展にともないパーソナルコンピューター（以下、PC）が普及している。当院でも平成6年度より病院総合医療情報システムの一環として看護支援システムが稼働している。看護職員は日常業務を行う上でPC利用は不可欠となっているが、業務として定型的な入力はできてもPCを有効活用するまでには至っていないと思われる。昨今IT革命と言われるように情報の共有化や看護情報の活用のためにPCはますます必要になると考える。そのためにはPCを利用した情報活用能力の習得が望まれる。看護システム委員会では看護職員の情報教育の一環として、平成11年度・平成12年度にPC操作普及を目的に講習会を開催した。開催にあたり当院看護職員のPC活用状況の調査を行ったので報告する。

2. 方法

期 日：平成11年7月，平成12年8月

対 象：当院看護職員

方 法：質問紙を用いたアンケート調査

調査内容：① PC所有の有無

② PCのOS

③ PCの機種（平成12年度のみ）

④ PCの利用方法

⑤ PC講習の受講希望内容

⑥ PC講習受講希望者数

⑦ 看護支援システムが院内の医療情報システムとどのように連携されているか

⑧ 医療情報システムや看護支援システムについてどのようなことが知りたいか

3. 結果

- 1) アンケート回答数は平成11年度291名、平成12年度291名で回収率74.6%であった。
- 2) PCの所有者数は平成11年度 計100名で全体の34.4%、平成12年度 計166名で全体の57.0%であった。(図1)
- 3) パソコン所有者と所有していない者の割合は平成11年度、所有者が少ない部署では約10%、多い部署では約50%であった。(図2) 平成12年度、所有者が少ない部署では約30%、多い部署では約85%であった。(図3)
- 4) PCの経験年度別所有率は、副婦長が78.6%、婦長が73.7%、次いで1年目が62.1%だった。(図4)
- 5) OSはWindows98が主で、平成11年度42.9% 平成12年度 69.3%であった。(図5)
- 6) 機種は富士通の使用者が最も多く全体の32.3%であった。(図6)
- 7) 利用法は、ワープロが23.7%、インターネットが23.1%、メールが21.4%だった。(図7)
- 8) PC講習受講希望内容は、Excel、Word、基本的操作などであった。(図8)
- 9) PC受講希望者数は、平成11年度187名64.3%、平成12年度97名33.9%だった。(図9)
- 10) 看護支援システムが院内の医療情報システムとどのように連携されているかについて知っているかと答えたものは、平成11年度21.3%、平成12年度23.7%だった。(図10)
- 11) 医療情報システムや看護支援システムについて知りたいことは、看護支援システムのしくみ、今後の病院総合医療情報システムの動向であった。(図11)

4. 考察

PC所有率は上っており、経済企画庁調査室の調べによる家庭へのパソコン普及率(平成11年度29.5%)¹⁾と比べても上回っており、PC活用に対する意識の向上が伺える。経験年度別では、副婦長・婦長に所有者の割合が多く、職務上の必要性や職業人としての自覚、経済的余裕から所有率が高いと考える。²⁾また、1年目に所有率が高く、この世代は現在の教育システムの一環で学生時代に情報教育を受けてきていることが影響していると思われる。³⁻⁶⁾使用しているPCのOSはWindows98が占めており、最新の物を購入していることが言える。また、機種では富士通の使用者の割合が多く、業務端末に富士通が採用されていることや市場に出荷されているメーカー別の台数が多いことが反映されている。⁷⁾利用法はワープロ、インターネット、メールという状況から、報告書の作成、情報収集手段、業務連絡や友人とのコミュニケーションの方法などに活用されていると考える。PC受講希望内容からは、業務や看護研究に活用できることから自分の使用できないソフトを使いこなしたい、コンピューターの操作方法・情報処理に対する基礎的な知識を習得したいと要望していることが考えられた。また、PCの基本的な操作をおさえておきたいと考えていることが伺えた。^{3) 8)}受講希望者数は減少を示したが、関心が薄くなったのではなく、前年度に参加し基本的なことを習得したり、PCを所有し自己学習により知識を習得したりしたことにより必要性がなかった人や勤務上参加が難しいと考え参加を見合わせた人がいたためと考えた。

パソコンを有効に活用する知識・技術があれば、スムーズに看護業務に活用していくことができ、業務の効率化が促進し、ベッドサイドケアの充実につながったり、患者様へのケアを効果的に行うことができると考える。そのためには、看護職員も情報活用に関する知識を高めていく必要がある。^{4) 9-11)}

パソコンの個人所有率が上がっていることから、個人の学習希望と業務に使っていくことを合せた内容で情報教育を行っていく必要があると思われる。

看護支援システムが院内の医療情報システムとどのように連携されているかについて知っている者は2割で、医療情報システムを構築するために必要な知識・技術の教育が必要であると示唆された。

現在通信技術の進歩により、世の中では病院内にとどまらず、関連施設やさらに進めて地域との共有化も進み、さまざまなシステムが構築されつつある。また、医療機関における電子カルテ化の動きも高まってきており、今後ますます医療分野でのコンピューターの普及が進むことが予測される。^{12) 13)} このような世情の中で、情報教育を受けてきていない職員が学習の機会を与えられ、パソコン活用に関する教育が進めば、他職種や地域を含めた看護情報の発信と情報交換など、活用の場を広げることができると思われる。また、医療情報システムを導入する際に、企業が制作したものをそのまま使用するのではなく、情報の知識を持って、システムの改良や改訂に看護の内容に踏み込んだ具体的な提案ができるようになる。^{14) 15)}

5. まとめ

- ① PCの所有者は平成11年から平成12年にかけて24.7%増加し、平成12年度調査時点でPCを個人所有している職員は全体の57%であった。
- ② PCは、ワープロ・インターネット・メール等に使用されていた。
- ③ PC講習受講希望内容は、Excel・Word・PCの基本的な操作などで業務や個人で活用できる内容が望まれていた。
- ④ PC所有者の増加とは比例せず、PC講習の受講希望者数は減少した。
- ⑤ 医療情報システムの連携について知っている者は約2割で、システム構築に関する情報教育の必要性が示唆された。

6. おわりに

今回の調査で看護職員のPCや医療情報システムに対する実態を知ることができた。調査を元にPC講習会を行ってきたが、今後もPCやシステムが円滑に活用できるように、希望に添った取り組みをすすめていきたいと思う。

最後に、この調査を行うにあたりアンケートにご協力を頂いた皆様に深く感謝いたします。

参考文献

- 1) ニックス営業本部 <http://www.nics-com.co.jp/html/pcchousa.htm>
- 2) 佐藤雅子：看護職員のパソコン使用の現状 第17回医療情報連合大会論文集 450-451, 1997.
- 3) 中野正孝他：看護における情報科学教育方法に関する調査研究
千葉大学看護学部紀要 Vol19. 125-130, 1997.
- 4) 中野正孝他：わが国の看護教育施設における情報科学教育の現状
看護教育 335-341, 1990.
- 5) 中野正孝：看護系学校における情報科学教育の方法 看護教育 345-351, 1990-6.

- 6) 石垣恭子他：看護学科における情報教育の現状と将来
第18回医療情報連合大会論文集 76, 1998.
- 7) マルチメディア総合研究所 <http://www.m2ri.jp/newsreleases/00201.html>
- 8) 山田光子：看護管理者への情報教育の実際と課題
第19回医療情報連合大会論文集 370-371, 1999.
- 9) 江角弘道他：電子カルテ稼動に伴う看護局パソコン研修のあり方
第19回医療情報連合大会論文集 368-369, 1999.
- 10) 渡邊亮一：看護教育における情報科学の位置づけ 看護と情報 Vol.6.30-36, 1999.
- 11) 松井英俊：看護専門学校における情報科学教育の現状と課題
第17回医療情報連合大会論文集 92-93, 1997.
- 12) 宇都由美子：看護情報システムの導入は何のため 看護展望 Vol.25.2-3, 2000.
- 13) 宇都由美子：インテグレートヘルスケアを支える情報の科学
第17回医療情報連合大会論文集 24-25, 1997.
- 14) 栗原幸男：看護情報教育をどのように位置づけるべきか？
第20回医療情報連合大会論文集 996-997, 2000.
- 15) 成田裕一他：実践教育を指向した看護学生情報教育
第18回医療情報連合大会論文集 620-621, 1998.

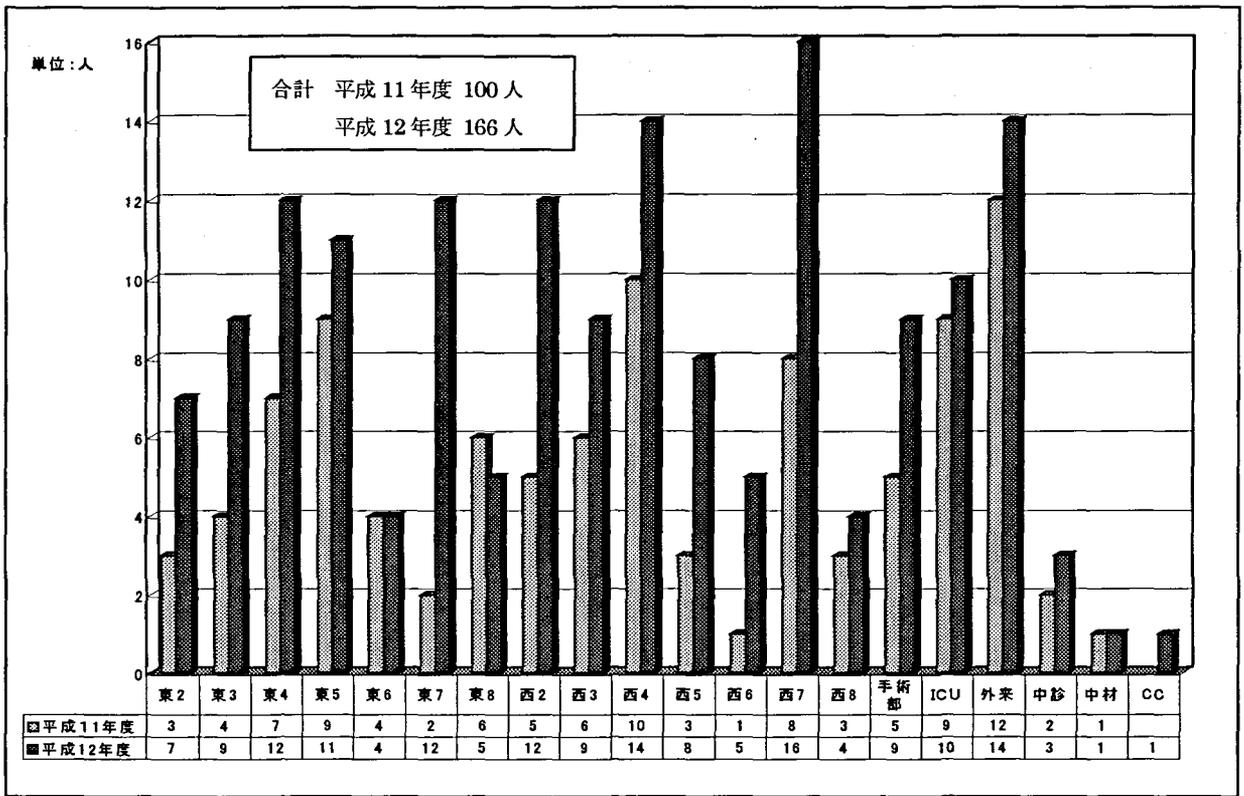


図 1 パソコン所有者数

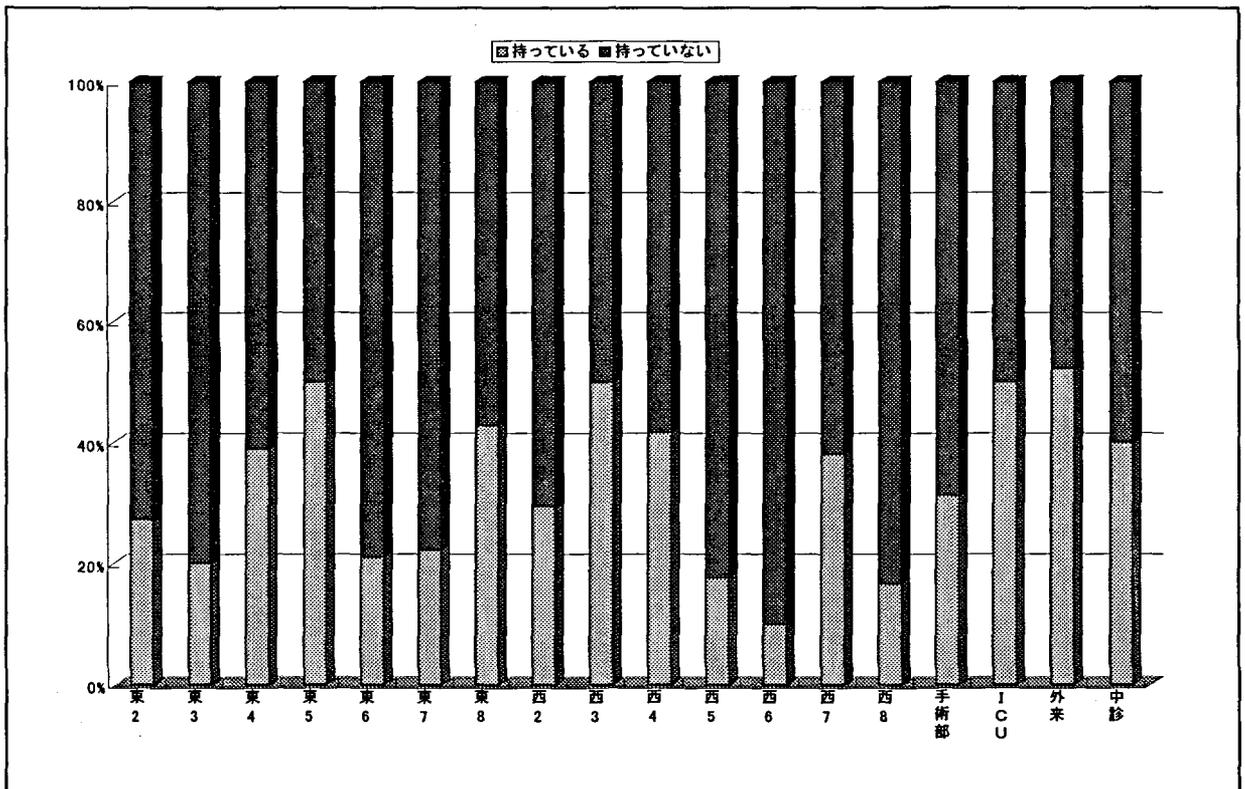


図 2 平成 11 年度部署別パソコン所有率

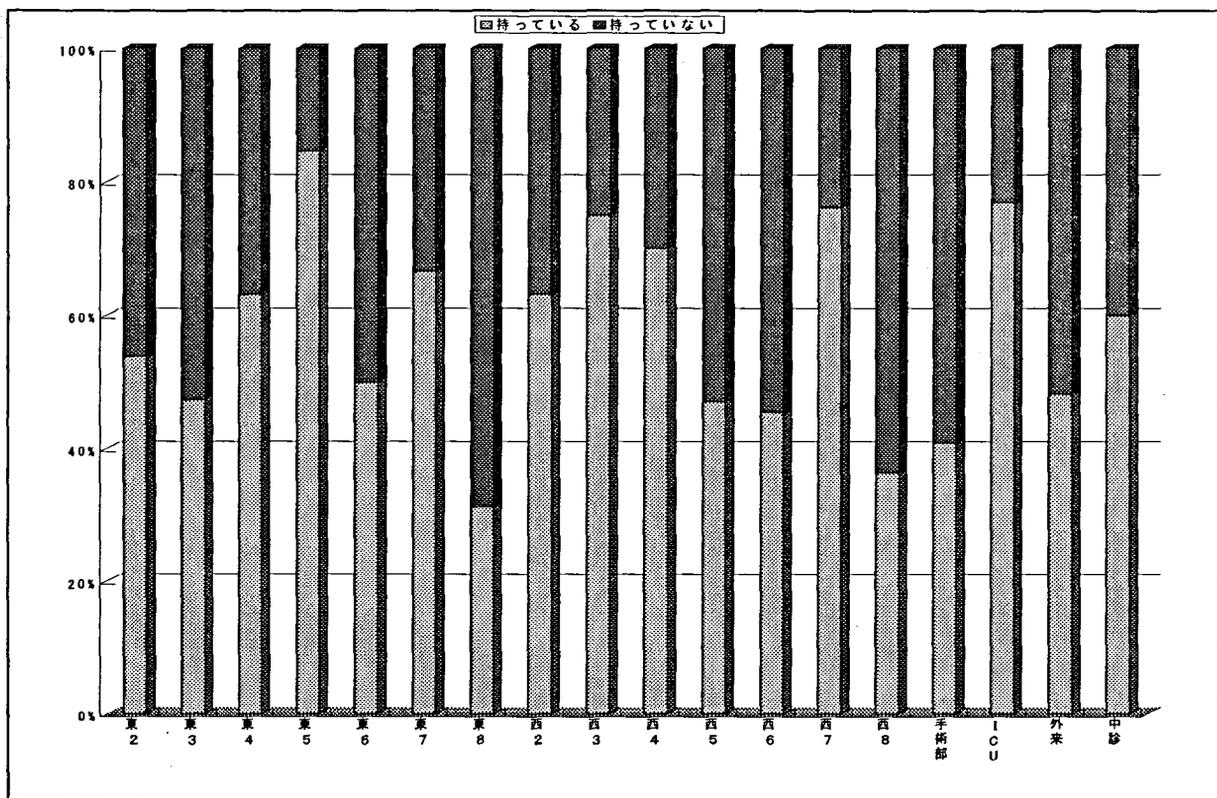


図 3 平成 12 年度部署別パソコン所有率

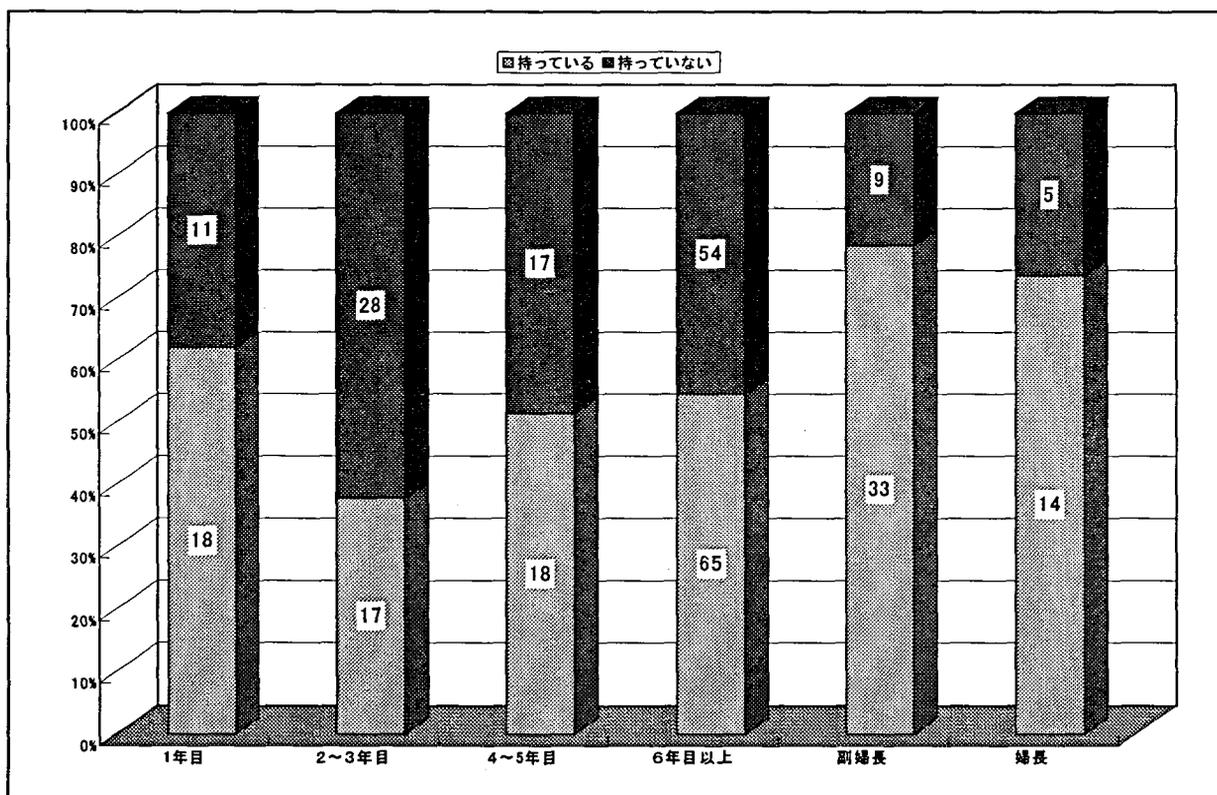


図 4 平成 12 年度経験年度別パソコン所有率

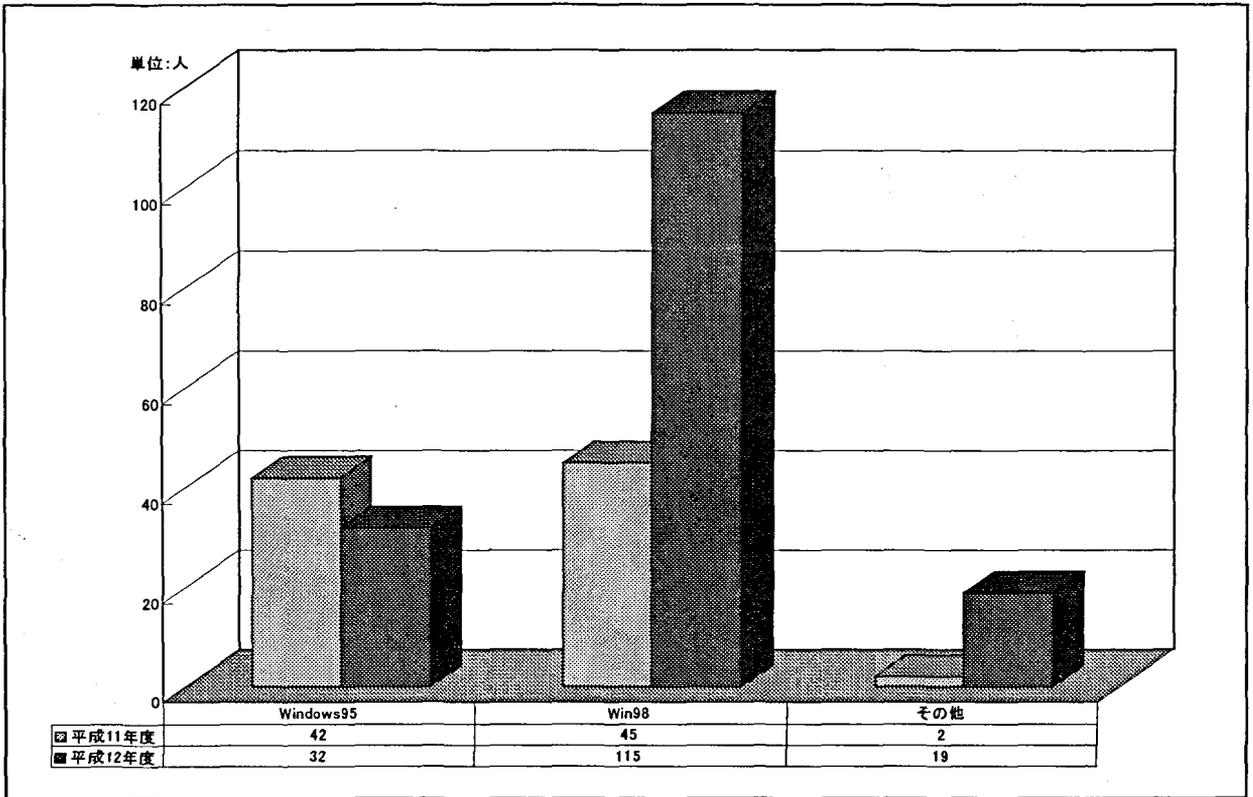


図 5 パソコンのOS

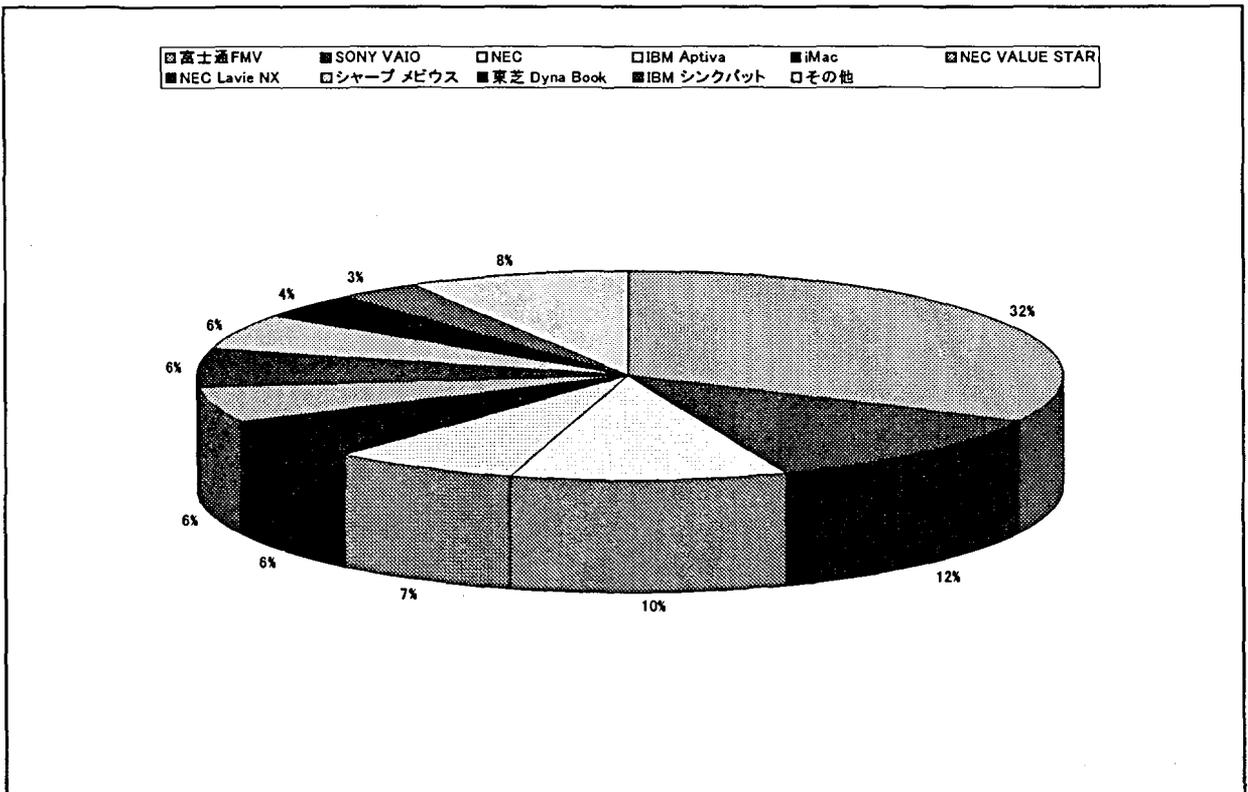


図 6 パソコンの機種

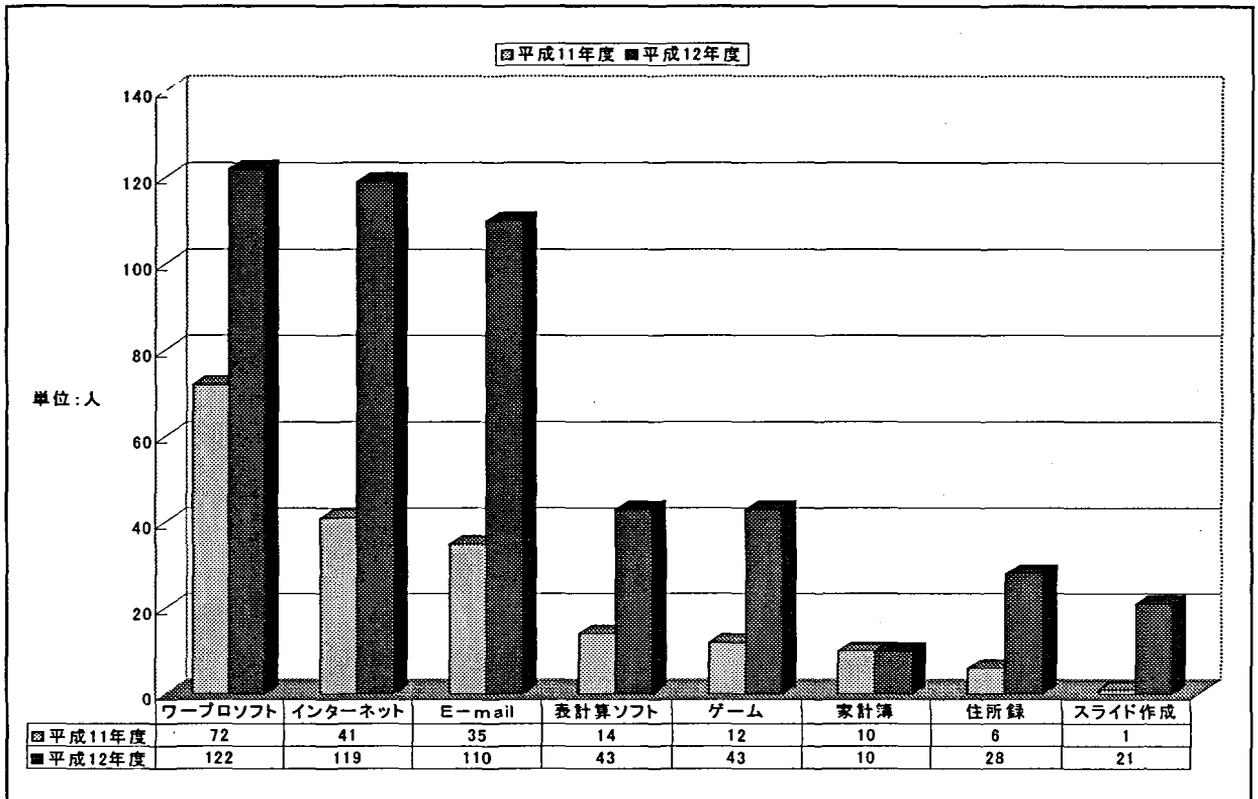


図 7 パソコンの利用方法

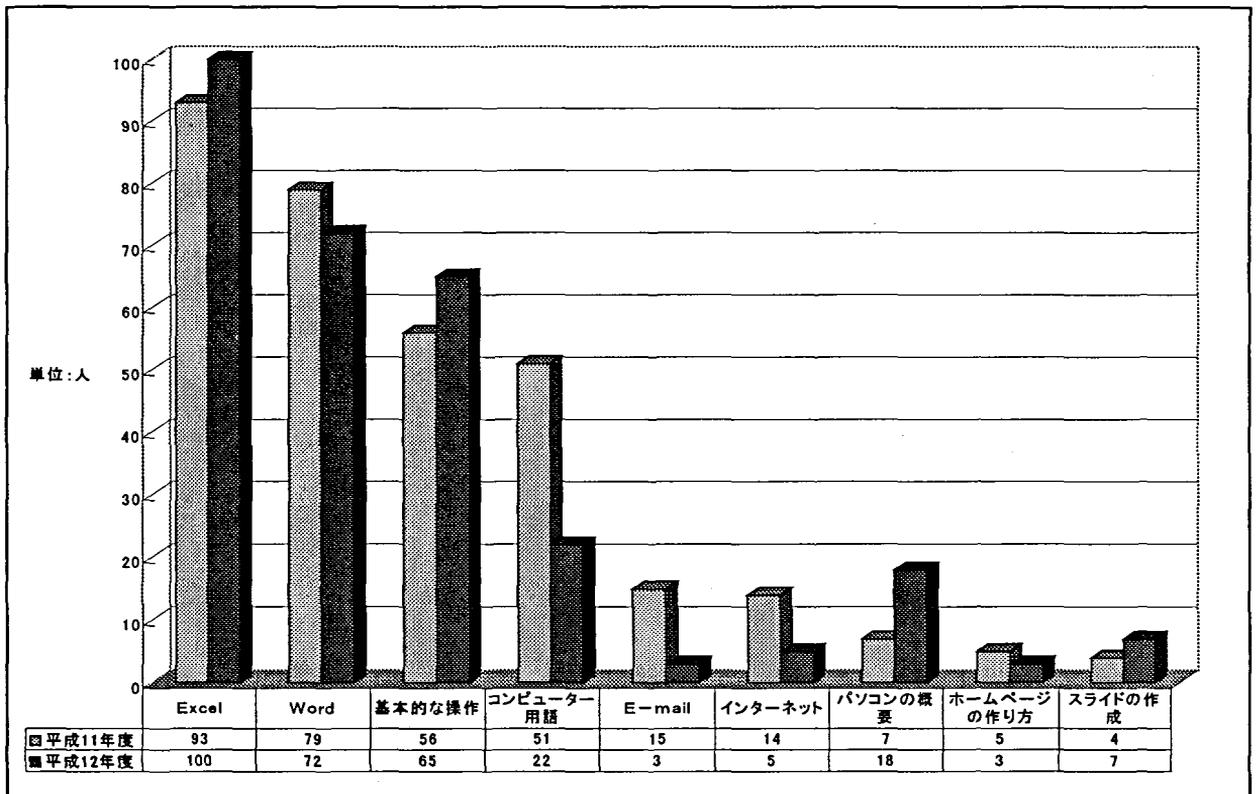


図 8 パソコン講習の受講希望内容

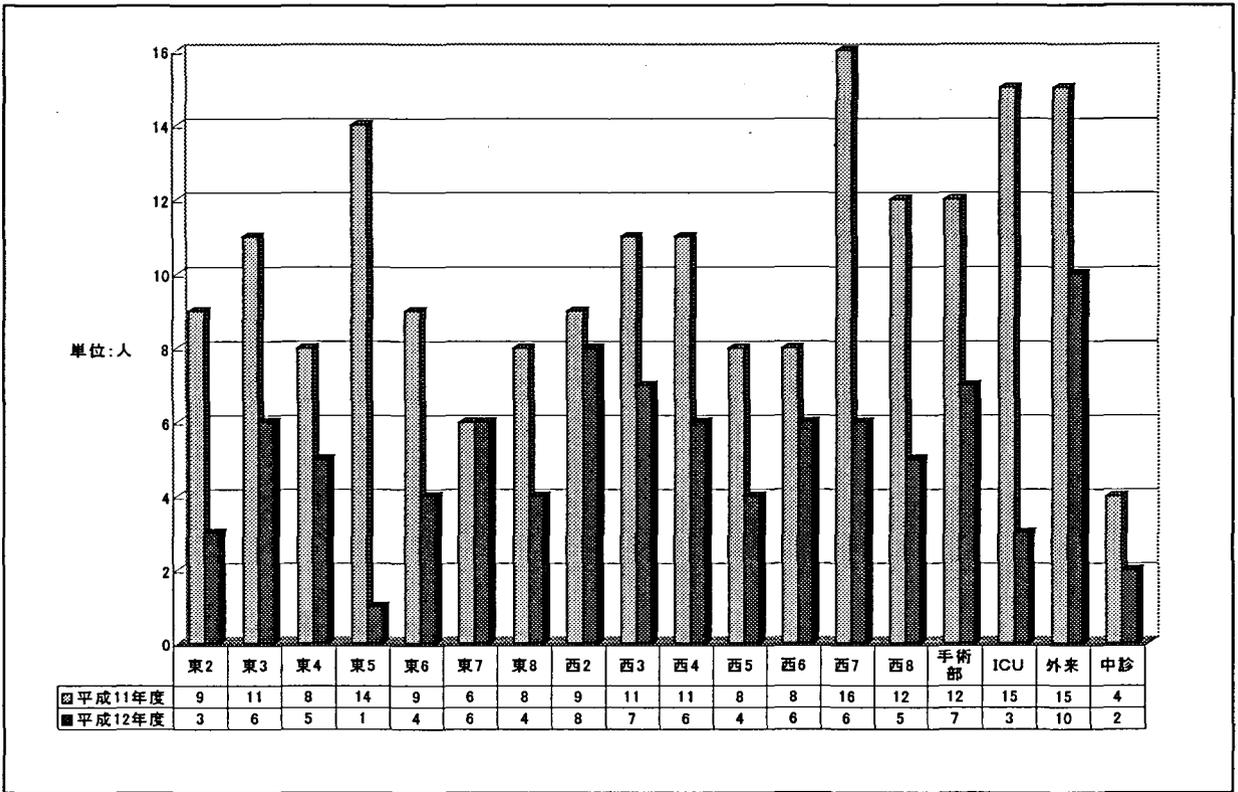


図9 部署別パソコン講習受講希望者数

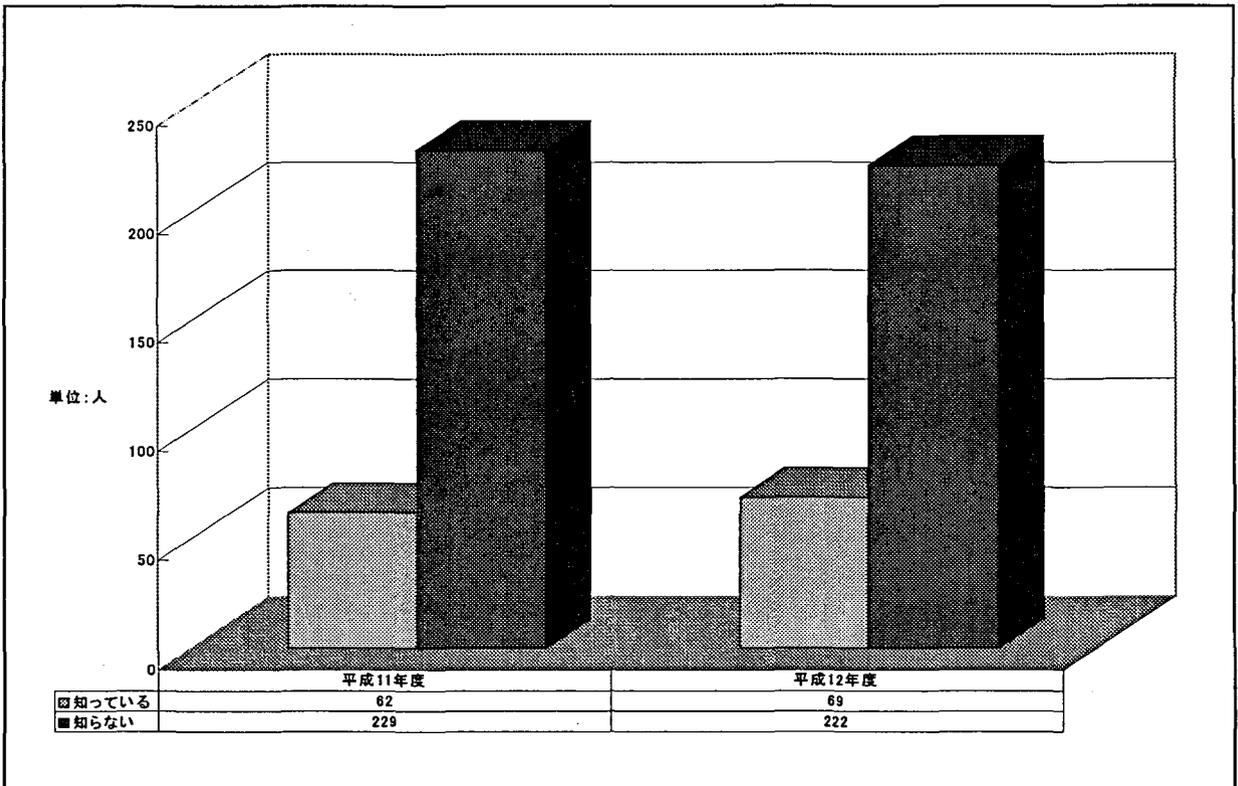


図10 システム連携についての周知度

平成12年度 平成11年度

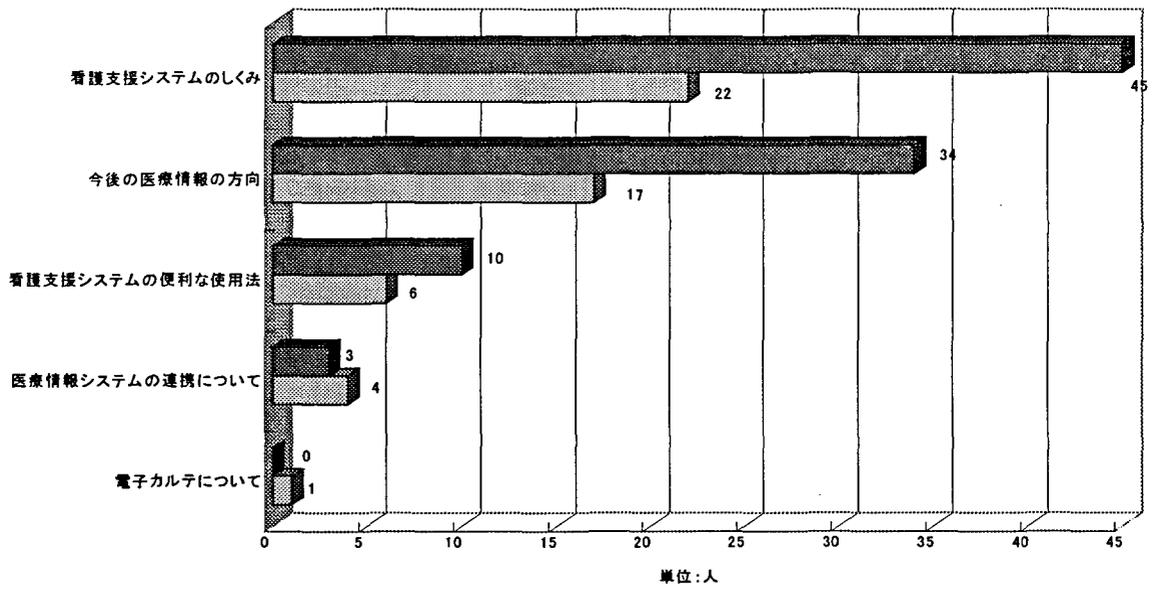


図 11 システムについて知りたい内容